



子どもの安全を守る学校の役割

～災害や事故から自らを守ることができる子どもを育てる～

天童市立寺津小学校

はじめに

災害等の危機から児童生徒を守る際に大切なのは、危機管理体制づくりと共に、児童自身が自分の『いのち』を守るための意識や判断力を育成することではないかと考えています。保護者や地域と連携した取り組みの一端を紹介します。

実践の紹介

(1) 災害時避難訓練

年間で計画している避難訓練は5月・9月・1月の3回ですが、それに加え、強度の地震下での対応を体験するねらいで、全児童が起震車による震度6～7の地震を体験しました。強い揺れの中で、机に頭をぶつけるケースも考えられ、あらためて頭を守る大切さも感じたところです。

本校で採用している防災頭巾は、全児童が携帯し、非常時に着用して避難することが児童の意識として定着しています。

(2) 災害時引き渡し訓練（9月3日）

地震時の避難に引き続き、建物の倒壊により安全な下校が難しい状況を想定して、地域の学童保育と連携して引き渡し訓練を行いました。

電話や携帯電話等の通信手段のダウンも想定し、車載スピーカーによる広報と、各地域の公民館に、学校の対応について文書を貼り出すなどの広報も同時に実施しました。

広報スピーカーの音量や音の指向性の課題が浮き彫りになり、実際の運用には、まだまだ課題があることがわかりました。

災害時伝言ダイヤルや災害時優先電話について周知する一方、一斉メール送信などのメディアと併用する必要性を感じました。

(3) 登下校時に地震に遭遇したら

登下校時は、児童だけの活動になるので、その場での児童自身による判断や行動が大切になります。そこで本校では、次の観点で、児童に安全指導を実施しています。

- ① 倒壊しそうな樹木・建物の傍から離れる
- ② 近隣の住宅、住人に救助を求める
- ③ 学校に近い場合は学校へ、家に近い場合は家に向かって避難行動をとる

災害に限らず、携帯（スマホ）対策、交通安全など、現代の子ども達が求められる『自分を守る（育てる）力』は、多方面で求められています。今後もその力をのばす取り組みを大切にしていきたいと思えます。



平和なひと時を災害がおそったら・・・



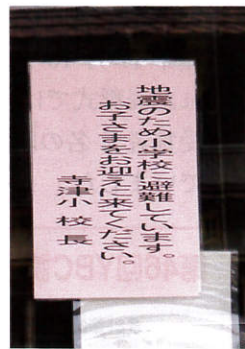
普段は椅子に掛けてある防災頭巾が、落下物等から頭を守ってくれます。



震度7を体験する!



スピーカーを積んだ広報車で、引き渡し訓練の実施を地域に呼びかけます。



公民館の掲示板を利用して訓練の実施を地域に呼びかけます。



登下校の安全は自分たちの手で・・・